

## 頼山陽の日本外史をめぐるて (二)

土屋 博

(日本外史のテキスト類)

二十九 「訓蒙日本外史」 東陽大槻誠之解、簡齋長田徳隣校

(大川屋書店、明治三十二年五版、全七冊帙入)

明治八年版權免許、明治二十年版權讓受御届・再版御届・製本替御届、明治二十五年別製本御届。

(明治二十五年版別製本版の全七冊帙入りも所有)



三十 「校刻日本外史 全」 頼山陽著

(郁文社、明治三十九年刊、定價金壹圓貳拾錢、七六〇頁)

三十一 「新撰日本外史鈔」 明治書院編輯部編

(明治書院、明治四十四年訂正版、定價金參拾錢、一四一頁)

初版は明治四十三年。例言より、「頼山陽日本外史尊皇室、斥霸府、明大義、正名分、且於所謂國家成敗盛衰之狀與臣屬謀戰忠邪之跡、歴歴可以徴焉。」と。

三十二 「新譯日本外史」 大町桂月譯評

(至誠堂、明治四十四年二月十八版、正價金壹圓五拾錢、一一九〇頁)

初版は明治四十三年九月。天金。ポケットサイズの美しき本なれば、一生の友とすべし。試みに大町桂月の評の部分を通して讀まば、日本外史の粹を短時間にて満喫することを得。

(大正五年四十四版、函入も所有)

(大正八年五十三版も所有)

(明治四十四年六月刊の學生文庫第二編「新訂日本外史上」、二八六頁も所有)

三十三「註解 日本外史抄 正篇」新保磐次編

(金港堂書籍、明治四十五年十五版、定價金廿五錢、六二丁)

和綴。初版は明治四十一年。古書價格百圓也。緒言より、「本書は小學校を卒業したる青年の漢學力を養成せんが爲めに著せる補習讀本の一にして、其の日本外史抄の卷是れなり」と。活字大きければバスや電車の中にも讀み易し。

三十四「日本外史鈔 全」簡野道明校訂、國語漢文研究會編

(明治書院、大正元年訂正版大正八年度用、臨時定價金四拾二錢、一四四頁)

「成東町平山直義所有」の墨書あり。

例言より、「一 此書、就山陽日本外史、鈔事實文章並正大雅馴者、以充中等學校漢文讀本」と。(大正十五年度用も所有。臨時定價金五拾八錢、本には「豫科乙組南澤たつ子」の署名あり。最終頁に破れあり。)

三十五「新修 日本外史鈔」簡野道明編

(明治書院、明治四十五年十月刊、大正十六年度臨時定價金七拾錢、本文一六六頁十附載

一三頁)

附載に詠史詩鈔及び年表あり。例言に曰く、「山陽賴氏の日本外史は、理明かにして辭粹、之を讀めば人をして知らず識らず尊王賤霸の大義を明かにし、忠君愛國の志氣を振作せしむるに足る。世人此書を推重して、維新中興の先聲を爲すと稱する所以なり。」と。

(昭和二年訂正版も所有。昭和三年度臨時定價金七拾錢、卷末頁に「鈴木揚子」なるペン字のサインあり。)

三十六 「十錢文庫 訓蒙日本外史 武田氏上杉氏織田氏」

(東京百華書房、大正元年十月刊、定價金十錢)

東陽大槻誠之解、簡齋長田德隣校。

三十七 「有朋堂文庫 神皇正統記・讀史餘論・山陽史論 全」

(有朋堂、大正三年刊、非賣品、七九〇頁)

山陽の日本外史及び日本政記の論贊部分をすべて収録し居れば、携帶に便利。

(昭和二年版も所有。厚さ三・五糎と大正三年版の二・四糎よりも分厚し。)

三十八 「譯文日本外史 原文摘入」 文學士上田景二譯註

(朝野書店、大正四年七版、定價金壹圓五拾錢、一四三二頁)

初版は明治四十五年。函入、天金。古書價格二千五百圓也。自序より、「山陽の外史は、其措辭の輕妙なる其才氣の横溢せる、我邦史乘中唯一の文章なり。其徳川幕末に在りて、巧に忌諱を避けながら縱ほしままに大義名分の存する所を明にして、陰かに王政復古の萌芽を人心に種まゑたるは、是亦我邦唯一の寶典なり。されば現時緒學校の教科に於て、士吏登用の試問に於て、此書を用ゐざるもの少まれなり」と。

三十九 「賴氏藏版 日本外史 大正改版 全六卷」

(著者廣島縣士族頼久太郎、著者相續人京都府平民頼龍二、發行者田中太右衛門・柳原喜兵衛・中川清次郎、大正四年改版發行、五四頁十五〇頁十四〇頁十五〇頁十五二頁十七〇頁)

古書價格三千圓也。教科書の體裁をとり和裝。比較的厚紙の紙質にて、總計三一六頁に及ぶ。活字は改版なれば讀み易し。

四十「日本外史鈔本」東京高等師範學校教授兒島獻吉郎編

(光風館、大正五年訂正再版、大正十三年臨時定價金四拾錢、一〇二頁)

古書價格二百圓也。初版は大正四年。平氏については、平氏傳統、忠盛興家、重盛諫言、維盛大敗、平氏滅亡の五篇、源氏については、源氏傳統、頼朝破平氏、頼朝伐義仲、一谷之戰、屋島之戰の五篇を収録す。

四十一「日本外史論文段解」三島中洲先生著

(二松學舎藏版、大正八年三版、定價金四拾錢、七六頁)

初版は大正三年。古書價格二百圓也。論文毎に「主意」の一行あるは便利。第一論については、「言王家自失其兵權、而源平二氏起執天下兵權、故權字一篇眼目」と。

四十二「邦文日本外史」頼山陽原著、池邊義象譯述

(東京敎文社、大正十年刊、定價金四圓五拾錢、一五七二頁)

初版、函入。序より、「武士道精神充滿して始めて世界の平和も保たるべし。日本外史讀習の如きは、余は青年諸士に奨めむとするものなり。」と。

(大正十年郁文舎刊の函入りも所有)

四十三「纂評 日本外史論文箋注 全」池田蘆洲著

（東京修省書院藏版、大正十二年四版、定價金壹圓、本文九〇頁十附錄二二頁）

初版は大正六年。過去學者の註を集めたる資料集として便利。

四十四 「校刻日本外史」 賴襄子成著、久保天隨校訂

（岡村書店、大正十三年刊、定價金二圓五十錢、七二四頁）

原版主松平基則。序より、「賴氏外史流傳既久近時漢學復興其覆刻之者頻頻相踵而出」云々と。

四十五 「漢文叢書 日本外史 上下」

（有朋堂、大正十四年刊、非賣品、一〇一二頁十一〇五一頁）

天金。文學博士辻善之助による四十頁に及ぶ日本外史解題は讀み応へあり。曰く、「伊藤博文も我長州が勤王の志を立てししは外史の功多きに居ると言ひしとぞ」と。

四十六 「山陽史論集」 野中元三郎編

（合資會社富山房、大正十四年刊、大正十五年度臨時定價金五拾壹錢、一二七頁）

上篇に日本政記九十二の論文中四十六論文を、下篇に日本外史より十六論文を収録す。

四十七 「教科適用 日本外史鈔」 飯田傳一編

（東京日進堂、大正十五年三版、臨時定價六拾六錢、本文一五九頁） 紹介者…土屋博

初版は大正十三年。中學校漢文科用の文部省檢定濟み教科書。

凡例に曰く、「外史の一たび世に出づるや殆んど家毎に藏して讀まざるものなかりきと云ふ。宜なる哉明治維新の大原動力を爲したりと稱せらるることや。外史の文章概して雅健

明哲、讀者をして自ら奉公殉國の心を感發せしむるものあり。されど巻帙較々浩瀚直に以て教課とするに適せず、是れ余が鈔録の擧ある所以なり」と。

章立ては、平氏篇、源氏篇、北條氏篇、楠氏篇、新田氏篇、足利氏篇、後北條氏篇（早雲創業）、武田・上杉氏篇、毛利氏篇、織田氏篇、豊臣氏篇、徳川氏篇より成る。

「忠盛興家」、「平治之亂」、「重盛忠孝」より「家康言行」、「秀忠謹厚」、「家光論侯伯」までの五十篇を収録す。

四十八「詳解日本外史」小宮水心註

（立川文明堂、昭和三年十六版、定價金貳圓五拾錢、一一四三頁）  
初版は大正元年。古書價格三千二百四十圓也。

四十九「詳解全譯 日本外史 全」幸田露伴監修、大町桂月譯評、公田連太郎補註

（至誠堂、昭和六年刊、定價金五圓、特價參圓五拾錢、一四五八頁）  
天金。立派なる美本にして終生愛するに足る。大町桂月、序に曰く、「日本外史は余が十四五歳の頃愛讀せし書也。思ふに、日本人の書きたる漢文の書にして、日本外史ばかり長き年月にかけて多くの人に讀まれたる書物は他にあらざるべし。その著者頼山陽の人物、識見、趣味、筆致が、日本男子の意見と相投合すれば也」と。

五十「日本外史 楠氏」

（星野書店、昭和六年刊、定價金參拾錢、一〇〇頁）

編者は京都府立京都第一中學校國漢研究會代表山本正一郎。縦十八・五糎、横十三糎、和綴。

五十一「改版 邦文日本外史」頼山陽著、池邊義象譯述

(三陽書院、昭和七年二十五版、記念奉仕特價金貳圓七拾錢、七六八頁)

初版は昭和六年。序より、「本書は活ける戦史であり武士道史であるが、惜しむべし現代の青年諸士は學科多端のため、力を漢文學に注ぐ能はず、折角の名著も讀み難い原文では靴を隔てゝ痒きを搔くの憾みがある。予はこれを遺憾とし、茲に全三十二卷を邦文に譯述し上梓せしめた。」と。

(三陽書院昭和六年五十五版も所有。一一一六頁。割引特價金貳圓四拾錢。)

(三陽書院昭和九年刊の縮刷版も所有。建武中興六百年記念出版、函入。七六八頁、定價金壹圓五拾錢。縦十五・三糎、横十一糎のハンディ・サイズなり。)

(昭和十年三十五版の京文社版も所有。一一一六頁。定價金五圓。)

(昭和十二年、眞之友社刊の七十五版(當時のベストセラーなることを示す。)も所有。定價金五圓。函入。古書價格八百圓也。縦二十二・五糎、横十六糎。函には完譯決定版の文字も。)

五十二「日本外史鈔」東京帝國大學教授・東京文理科大學教授文學博士宇野哲人編

(東京開成館藏版、昭和七年刊、定價金五拾錢、本文一三〇頁)

和綴の製本、やや解れ氣味。例言より、「本書の目的は單に漢文の購讀に資するのみならず、兼ねて國民精神の啓迪、文學趣味の養成の一助たらしむるにあり。」と。

五十三「註解 日本外史」五冊のみ

(國民思想善導普及會、昭和八年刊、非賣品)

古書價格五百圓也。和綴。卷十二より卷二十二まで日本外史全體の後半部分に相當す。奇的に古書の保存状態良し。縦十七糎、横九・五糎のハンディ・サイズにして、極めて美しき印刷は極めて魅力的なり。

五十四「新定 日本外史鈔 全」文學博士飯島忠夫編

（日本大學出版部、昭和九年刊、定價金五拾八錢、一四二頁）  
ペン字にて日本大學中學校鵜澤某所有のサインあり。

五十五「註解 日本外史 全十冊」

（萬朝報社、昭和十年刊、定價十冊金五圓）

古書價格三千圓也。帙入。和綴。綠色。五十三の存在を知り慌てて別途揃ひの購入に走りたり。出版社及び裝丁の色は異なれど、中身は同一なり。全卷揃ひたる氣分は格別なり。手に取りたるサイズ感、和綴の手觸り、申し分無く、古書蒐集の極み、ここに存す。

五十六「頼山陽名著全集 第一卷 日本外史 上卷」頼成一編著

（章華社、昭和十一年刊、定價二圓五〇錢、五三二頁）

函入。本叢書には量に限度あり、主要なる部分のみ収録せらる。

五十七「大日本文庫國史篇 日本外史 上下」

（春陽堂、昭和十一及び十三年刊、非賣品、五二四頁五三三八頁）

古書價格二冊にて五百圓也。全ルビ付き。平泉澄氏の校訂及び解題は必讀の價値あり。氏曰く、日本外史は、よく國體の本義に立脚して數百年に亙る武家時代亂脈の時代を批判し、極りなき紛糾をさばき重疊の波瀾を描寫し、讀む者をして感奮興起せしめたり、と。

五十八「詳解全譯 日本外史 全 特製版」文學博士幸田露伴監修

（帝國書籍協會、昭和十二年十二版、定價金四圓二十錢、一四五八頁）

初版は昭和六年。天金。「警察署長谷川三男藏書、昭和十二年十一月廿日求む」のペン書きサインあり。大町桂月譯評、公田連太郎補註。中身は大町桂月の至誠堂版と同じものと思料。

五十九「日本外史楠氏篇」頼山陽著

(斯文會、昭和十二年十二版、六五頁)

古書價格二百圓也。初版は昭和七年。所有者は「二女七 深井雪枝」。日本外史卷之五新田氏前記の箇所のみを収録す。本と云ふよりはノートの如き形状、材質なり。

六十「校註 日本外史論文」岡村利平編著

(明治書院、昭和十六年一月刊、定價金壹圓、一五六頁)

古書價格二百圓也。十九の論贊毎に關係資料も収録せられ、懇切を極む。卷末附録には、氣節論、正統論、山陽先生行狀、更に皇室藤原系統表の折り込みを附す。

六十一 岩波文庫「日本外史 全五冊」 頼山陽著、頼成一譯

(岩波書店、昭和四十四年七版(第一卷の場合)、定價各二つ星、一三三二二四一―二二四二―六二二―六六二〇二頁)

初版は昭和十三年。六十頁に及ぶ人名索引は壯觀なり。冒頭に尾藤正英氏の昭和四十二年に書きたる解説あり。

六十二 岩波文庫「日本外史 全三冊」 頼山陽著、頼成一・頼惟勤譯

(岩波書店、平成二十三年一括重版、定價二千九百六十圓十税、三八七十三九五十四九八頁)

初版は昭和五十六年。昭和四十四年版と同様、尾藤正英氏の解説も同じものを掲載す。巻末に頼惟勤氏の「日本外史への手引き 跋に代えて」の関係圖書についての解説は充實。

(令和三年十二月八日受附)